

廃炉・汚染水対策ニュースレター

【内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所からのお知らせ】

トレンチ内の高濃度汚染水の除去(汚染源を取り除く)

福島第一原子力発電所では、3つの基本方針（「①汚染源を取り除く」、「②汚染源に水を近づけない」、「③汚染水を漏らさない」）に基づき、汚染水対策を進めています。

今回は、「①汚染源を取り除く」対策の一つ、トレンチ（配管や電源ケーブルを収納する地下トンネル）内の汚染水除去について御説明します。

トレンチ内には、事故直後に流出した高濃度の汚染水が溜まっています。

このため、トレンチ内の高濃度汚染水が漏洩するリスクを根本から解決するため、

トレンチ内部を特殊なセメントで充填し汚染水を取り除くことにしました。



平成26年11月下旬より、トレンチ内を埋める作業を開始し、今年6月には全てのトレンチ内の汚染水除去を完了する予定です。

※2号機及び4号機の原子炉建屋と連結しているトレンチについては、地下のトンネル部（水平方向に掘られた坑道）の充填が完了し、平成27年4月現在、2号機のトレンチ立坑部（地上と地下を連結するために垂直方向に掘られた坑道）の充填作業を行っているところです。

※また、3号機原子炉建屋と連結しているトレンチについては、地下のトンネル部の充填を行っているところです。

福島第一原発の廃炉・汚染水対策は世界にも前例のない困難な取り組みであり、試行錯誤や改良を続けながら、重層的な対応を行っています。

引き続き、改善を図りながら効果的な対策を講じるため、国も前面に立って取り組んでまいります。

作業現場から ～汚染水の残るトレンチのコンクリート充填～



日比さん： 2号トレンチの充填に関し、1日で300m³もコンクリートを打設しなければならない日もありました。構内作業は一人当たりの作業時間に制約もありますので、複数班体制を組み、職員総出80人くらいで行いました。その日は12月中旬で雨も降っていましたので、とても寒い中の作業でした。

大村さん： 現場で指揮を執っていた時に気をつけていた点は、作業手順を間違えないようにすることでした。時間が限られている中で大勢の人間が現場で動かなければならない仕事ですから、とにかく手順をしっかり守ることを心がけました。複数班で交代しての作業だったので、交代時の作業の引き継ぎに間違いがないかなども細かくチェックしていました。



鹿島建設株式会社 東京土木支店
東電福島土木統合せ務所 所長

ひび やすき
日比 康生さん



カジマ・リノベイト株式会社
工事部 副部長

おおむら ひでき
大村 秀樹さん

日比さん： 浜通りは個人的には非常に好きところで、東北でも雪が少なく気候が良く、海の幸も山の幸もあり非常に良いところですよ。廃炉作業は、かなり長い話にはなりますが、少しでも復興の役に立てればと思っています。妻と子供も「福島のため、日本のために頑張る」と応援してくれています。

大村さん： 震災により福島は大変な被害を受けましたが、「土木屋だからこそ出来ることがある、福島の復興のために少しでも力になれば」とと思っています。みなが高いモチベーションを維持しながら働ける環境を構築するため、休憩時には職員一人一人に積極的に話しかけるなど、コミュニケーションを大切にしています。

◆◆◆ 現地事務所から ◆◆◆

初めまして。4月1日より原子力災害対策本部廃炉・汚染水対策チーム現地事務所長に着任しました生越(おごし)です。廃炉・汚染水対策の国の最前線である現地事務所長として、緊張感を持って取り組んでまいります。

先月、原子力災害現地対策本部長である高木経済産業副大臣が、福島第一原子力発電所の現場で働く協力企業を訪れ、作業員の方々に対し、「現場で働かれている作業員の皆様の努力があって始めて、廃炉・汚染水対策を前に進めることが出来る」との激励を行いました。これからも、国、東京電力、協力企業の力を結集して、廃炉・汚染水対策に取り組んでまいります。



廃炉・汚染水対策現地事務所
所長 生越 晴茂



発行 内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所

住所：福島県双葉郡楢葉町大字山田岡美し森8-57 連絡先：0240-25-5780